

WEEKLY SIGNAL

2020年12月18日(金) 1555号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	12/21(月)	12/22(火)	12/23(水)	12/24(木)	12/25(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	△ 1,700	△ 3,000	△ 4,000	△ 5,000	△ 4,000
財政他	+ 71,700	+ 3,000	△ 2,000	ト ン	+ 4,000
資金需給	+ 70,000	ト ン	△ 6,000	△ 5,000	ト ン
主要要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債償還(5年・10年・20年)利払い				
オペ期日	CP等買入 △ 600 補充供給 + 300				新型コロナ企業金融支 △ 98,400
オペスタート	ETP買入 + 100				
(日本)	2021年度当初予算案の閣議決定	営業毎旬報告(12月20日現在) 月例経済報告(12月)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (10月28.29日分) 景気先行CI指数(10月) 景気一致指数(10月)	黒田日銀総裁、経団連審議委員会 講演(都内)	有効求人倍率(11月) 完全失業率(11月) 東京CPI(12月) 小売売上高(11月)
(海外)	ユーロ圏消費者信頼感指数(12月)	米GDP(3Q) 米消費者信頼感指数(12月) 英GDP(3Q)	米耐久財受注(11月)	米株式・債券市場、短縮取引 ECB経済報告	米国、欧州、香港休場

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△ 0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△ 0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△ 0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△ 0.010 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初476兆2,300億円から始まり、15日に年金定時払いや国庫短期証券買入等の要因により486兆8200億円に拡大し、その後は週を通して概ね横ばい圏で推移し、486兆4,100億円を越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.028%から始まり、積み最終日となる15日は地銀・都銀業態の調達意欲は堅調で、同金利は上昇し△0.025%となった。新積み期の16日は△0.033%から始まり、地銀業態中心に調達意欲が高まったことから上昇基調となり、週末は△0.022%で越えた。ターム物は1W~2Wの年内物を中心に、主に△0.025%~△0.015%の水準で出合が見られた。
また18日の金融政策決定会合にて、日本銀行は新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラムについて期限を半年間延長するとともに、運用面の見直しを行うこととした。
来週の主な予定は、2021年度当初予算案の閣議決定(21日)や10月の日銀金融政策決定会合議事要旨の公表(23日)、東京CPI(25日)の公表などがあり、海

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△ 0.050 ~ 0.000
TDB 3M	△ 0.120 ~ △ 0.070
現先(on/1w)	△ 0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約7,500億円、週間償還額(約6,700億円)を上回った。不動産業や食品業等で大型の発行が見られ、活況なマーケットとなった。発行残高は先週末の24兆9,392億円から、17日時点で25兆2,122億円に増加した。14日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円でオフアされた。結果は、按分レート△0.039%・平均落札レート△0.011%と前回(按分レート△0.039%・平均落札レート△0.031%)比で平均落札レートは上昇した。発行レートは、△0.05%台~0%近辺での出合いであった。
来週の週間償還額は、約1兆5,000億円程度となっている。25日発行が予定されることから、活況なマーケットを予想する。CP等買入オペや新型コロナ金融支援オペ等の対象銘柄は、先週同様強いマイナスレートでの出合いを予想する。25日に、CP等買入オペが6,000億円でオフアされる予定となっている。

<TDB>

15日の6M959回債(6/16償還)の入札は、最高落札利回り△0.0902%(前回債△0.0861%)、平均落札利回り△0.0922%(同△0.0882%)となり、入札後△0.13%の小額の出合が見られた。16日の1Y960回債(12/20償還)の入札は、最高落札利回り△0.1081%(同△0.1291%)、平均落札利回り△0.1101%(同△0.1340%)となり、入札後△0.115%近辺の出合が見られた。17日の3M961回債(3/29償還)の入札は、最高落札利回り△0.0893%(同△0.0837%)、平均落札利回り△0.0942%(同△0.0867%)となり、入札後△0.096%~△0.093%の出合が見られた。そのほかセカンダリーでは概ね3M物が△0.105%~△0.089%のレンジ、6M物が△0.105%~△0.096%のレンジ、1Y物が△0.117%~△0.115%のレンジで取引された。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.08%の出合いから始まり、新積み期となる16日受け渡しも同水準で取引された。短期3Mの発行日となる21日受け渡しではレートは上昇し、△0.07%台での出合いとなった。SC取引は2年401~419回債、5年136~145回債、10年340~360回債、20年169~174回債、30年59~68回債、40年12~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。